雑 報

横浜に迷行したシロハラミツナギドリ A *Pterodroma hypoleuca* obtained
alive in Yokohama

鈴木秀男氏撮影
Photo by H. Suzuki

この鳥は、横浜市の鈴木秀男氏が本研究所に持参され種名を確定された。同氏によればその発見から保獲放鳥に至る終緯は次のようである。

シロハラミスナギドリの頭かき (Head-scratching) (鈴木秀男氏撮影)

発見 1962年9月1日午後10時、横浜市金沢区富岡町旧海軍航空隊防波堤上で、飛べずにうづくまっているのを神山清氏（横浜市戸塚区三ツ境114～6）が発見、取得された。翌2日正午同氏が鈴木氏に処置を依頼された。測定は翼22、尾11.5、嘴2.6、脚3.2cm（鈴木氏）。

2日 豚肉5g、3g、煮干（水にもどし）2匹（約5g）。水道水給与。夜は籠の金網に嘴と脚でよじ登る。

3日 朝煮干3匹、正午豚肉6g、水。山階研持参。夕方煮干3匹、塩水。前夜より元気よし。

4日 朝煮干2.5匹、塩水、正午煮干3、真水、夕方生鮭15g、塩水。元気よくなり柴田敏隆氏（横須賀博物館）に渡さる（塩水を与えられたのがよかったかも知れぬ）。

5日 午後5時、横須賀市久里浜、横須賀博物館前にて柴田氏放鳥、元気に飛翔して去った。

この間、鈴木氏により種々な姿勢が撮影されたが、ここに同氏の御好意により4枚を掲げる。このうちこの類の生体写真として、歩行姿勢及び頭かきの写真は得難いものである。鈴木氏に深く感謝の意を表す。

筆者も本研に持参されたとき、翼越しの頭搔きを実見し得た（脚動極めて早く、肩羽と三列風切の間から出す）また整羽に当り多量の脂腺の油で嘴をぬらした）。

On 1 September 1962, a bird of this species, *Pterodroma hypoleuca*, unable to fly was found and was fed with dried sardines, pork, salted salmon and salt water for five days. It recovered its spirit and flew well to the sea when released.

(黒田長久記 N. h. Kuroda)。